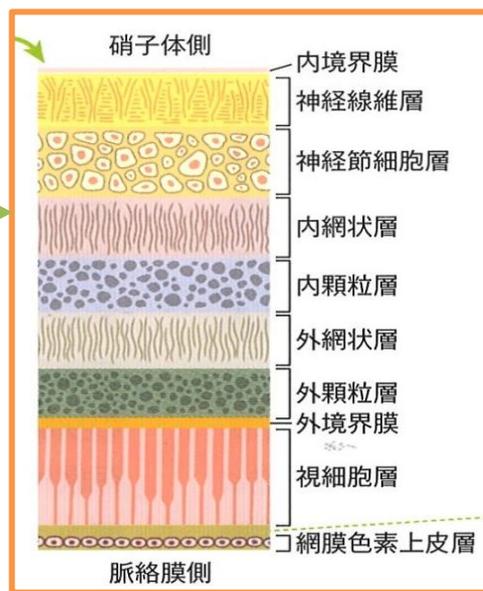
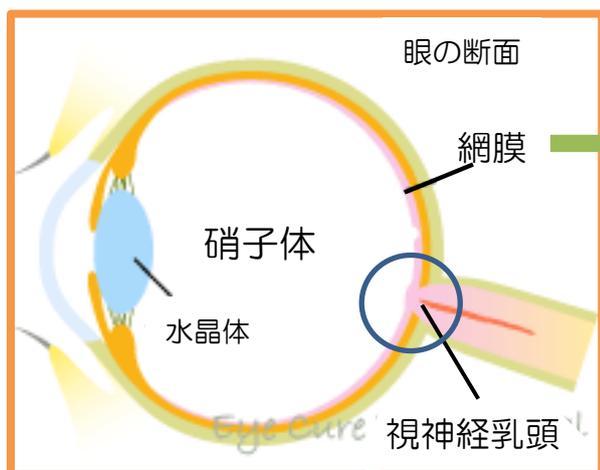


## 光干渉断層計(OCT)について

### <はじめに-網膜とは->

眼はカメラの構造と似ており、人間の眼に入った光はレンズの役割をする水晶体を通過し、フィルムに当たる網膜へ到達します。そして、網膜にある視神経が視神経乳頭を通り脳へと情報を伝達します。

この網膜は厚さ 0.3mm ほどの無色透明な膜ですが、内部は 10 層に分かれています。この 10 層の中には光や色を感じる視細胞や脳へ信号を届ける視神経だけでなく、視神経へ栄養を運ぶ血管や様々な細胞が存在しています。



### <光干渉断層計>

光干渉断層計 (OCT) は網膜の断層を撮影できます。右の画像は OCT で撮影した正常な網膜の画像です。画像中央付近に黄斑というへこみがあり、これは物を見るのにとても重要な部分です。OCT で撮影する事によって、網膜自体の形の変化だけでなく内部にある視神経や血管の変化などを細かく観察・記録する事ができます。

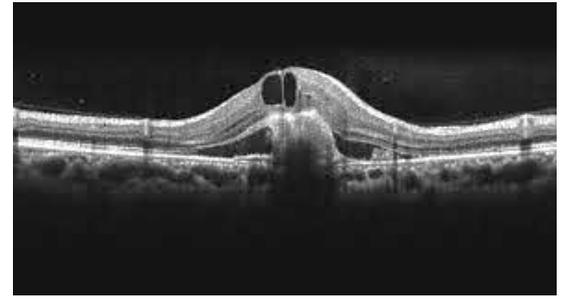
正常な網膜の OCT 画像



## <特徴的な症例>

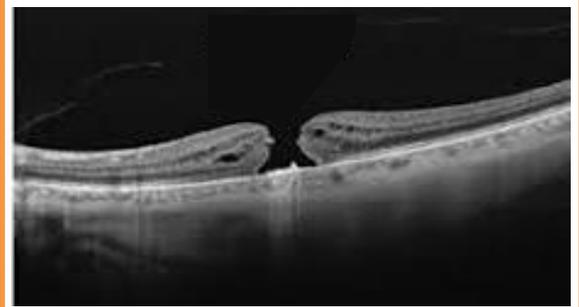
①の画像は加齢黄斑変性症の一例です。加齢黄斑変性症とは、加齢により網膜の黄斑に障害が生じる病気です。高齢化と生活の欧米化により日本でも増加しています。この病気が起こると物がゆがんで見えたり、視界の中心が見えにくくなるなどの症状が現れます。

①加齢黄斑変性症



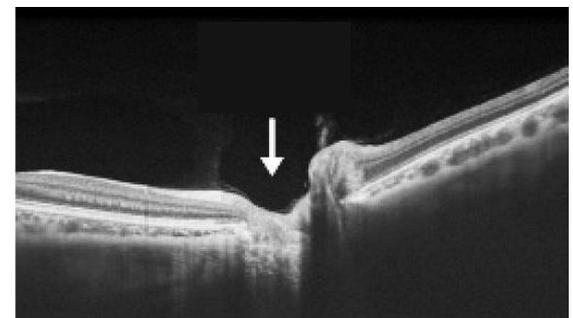
②の画像は黄斑円孔の一例です。黄斑円孔とは、黄斑の部分に小さな丸い穴が開いてしまう病気です。黄斑円孔が起きると視力低下や視界の中心が暗くなるなどの症状が現れます。

②黄斑円孔



③の画像は視神経乳頭の画像です。緑内障では、視神経乳頭に変化が生じやすいため、視神経乳頭を検査する事が重要になります。しかし、この視神経乳頭の大きさには個人差があるので、OCT を用い視神経乳頭の形や視神経の層の厚さを調べることで、病的な変化かどうかの診断ができ、病気の早期発見に役立ちます。

③視神経乳頭



## <最後に>

眼の奥の病気は早期発見・早期治療が重要と言われます。時には、片目を隠して左右の眼の見え方に変わりはないか、視界にゆがみや欠けている部分はないかなど、確認していただくと良いでしょう。

また、病気の経過観察のために、定期的に検査を受けていただくこともとても大切です。

